

60 years since the A-bombings

忘れられないあの日

**WASURERARENAI ANOHI**

THE DAY NEVER TO BE FORGOTTEN

A collection of testimonies and pictures  
by sufferers of the A- bombings of Hiroshima and Nagasaki





ピカッドン 広島 13才 女学生 ガラス混じりの爆風



広島

電車の中の人立は立ったままで黒焦げに。運転手の身体はタラップの形のままだ。

電車の中で黒焦げに

広島 12才 中学生



防空壕にひびくうめき声 長崎 13才 女学生



入ってきた列車を見た瞬間私は心が  
止るかと思う程驚愕した。  
それは地獄列車そのもの  
だった。ありとあらゆる  
る所に怪我人が縋り  
ついていた。

(諫早駅)

結成25周年記念事業  
横浜市原爆被災者の会

長崎

それはまさに地獄列車(1) 長崎 15才 女学生



それはまさに地獄列車(2) 長崎 15才 女学生



一人で逝ってしまった 広島 13才 女学生

お母さん死にたくない、いつしよに死んで  
お母さん、お母さん死にたくない、いつしよに死んで

その声もだんだん小さくなっていった  
お母さん死にたくない

死にたくない

死にたくない

死にたくない

死にたくない  
お母さん死にたくない

全身ヤケトとして死んで  
赤ん坊を抱いてうろた  
目で差を見ても  
お母さん

(練早 駈)

たづなく自分の事で精一ぱい

誰が救いを求めても何もしてやる気力もない。

結成25周年記念事業  
横浜市原爆被災者の会

お母さん死にたくない 長崎 15才 女学生



私はやっぱり変り果てた母の姿を見た。母の脳天は、また焦らさず白い煙を吹して、私は狂気のように母の黒いところの体を抱いて泣いた。

変わり果てた母の姿 長崎 16才 中学生



救援トラックに載せられて 広島 14才 中学生



私たちは、抱き合って無傷で助った事を「よかった、よかった」と喜びあいました。  
しかし秋風の吹く頃に友は原爆症で亡くなりました。  
私は次は自分の番ではないかと毎日、毎日生きた心地がしませんでした。

「原爆症」次は自分か 長崎 15才 女学生

やっとみつかった兄見えなくなった目で家族の者の手を一人一人さすりながら  
永遠の別れを告げて天国に召されていった。



広島

家族の手をさすり天国に 広島 13才 女学生

被爆後2週間、脱毛が始まった。



毛髪がバラバラと落ちる。

数ヵ月後のび始めの毛は頭でかちだった。



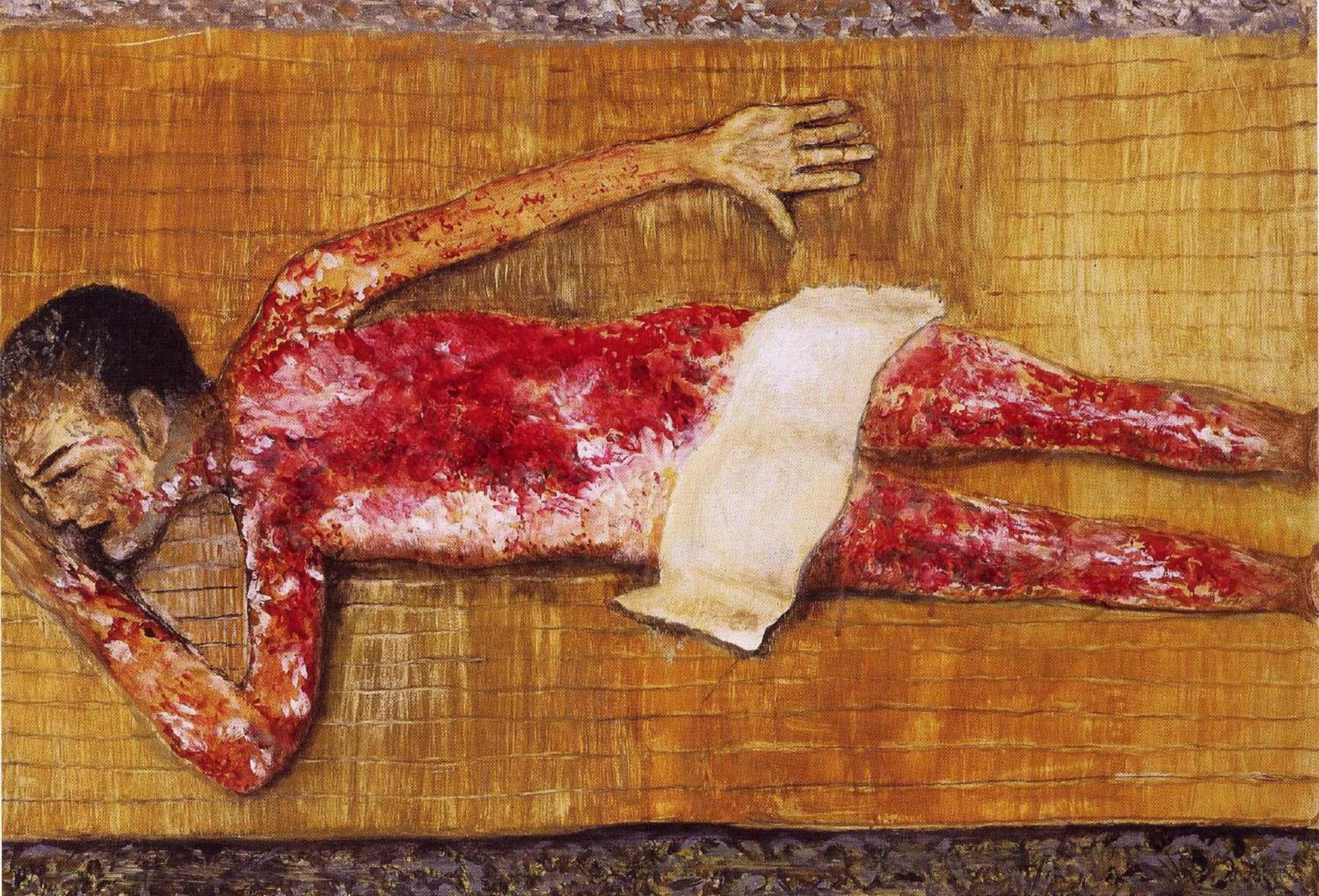
残った毛

悪童たちは、ハゲ頭をヒカドンと笑った。

結成25周年記念事業  
横浜中原爆被災者の会



頭デッカチの髪の毛が 広島 14才 中学生



痛みに耐えて救護を待つ15才の少年 広島 19才 軍人



「お母さん」と叫ぶ子供 長崎 17才 中学生



あちこちに黒焦げの死体 長崎 8才 小学生



被爆の三態 広島 軍人 36才 朝・昼・夜



被爆10分後、防空壕内で 広島 18才 少年兵



被爆後7日目 臨時救護所で 広島 18才 少年兵

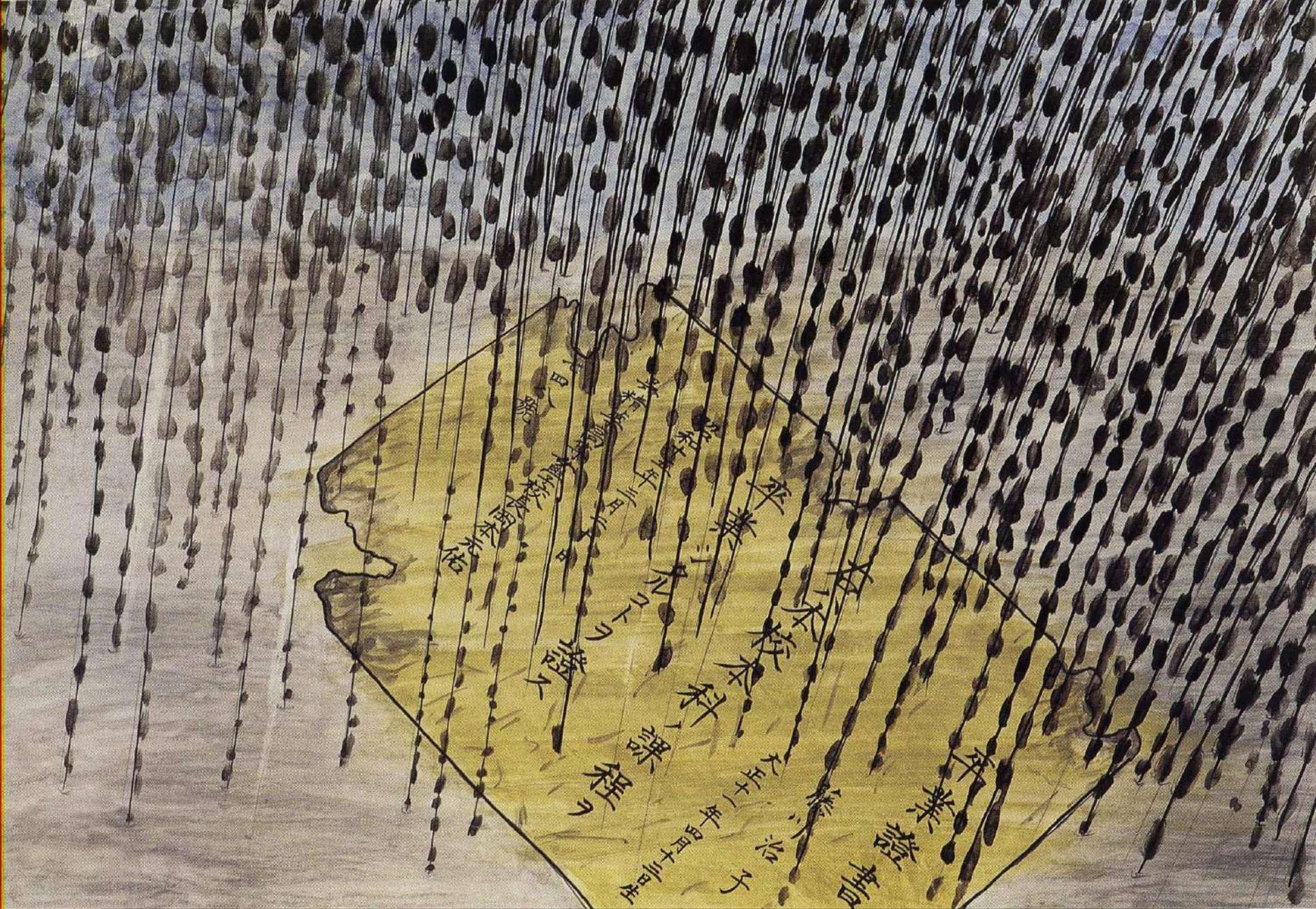


火に追われて逃げまどう 女子挺身隊  
このあわれさ、この悲しさ、何故、誰が

昭和三十年八月六日  
広島市千田町

結成25周年記念事業  
広島市原爆被害者の会

火に追われて逃げ惑う 広島 23才 女子挺身隊



「黒い雨」に打たれた卒業証書 広島 23才 軍属



全壊した  
工場から  
裏山の  
防空壕へ  
しばらくして  
黒い雨が  
ホタホタと  
落ちて  
きた

黒い雨

黒い雨 広島 13才 女学生



荷車の上の妊婦 広島 28才 軍人

収容した遺体に女学生が一人、兵器工場から浦上まで逃げてきて動けなくなり、日での道路のまんなか  
にあおむけにたおれていた。衣類は焼けて全裸である手も足も肉がはがれていたがまだ呼吸はしていた。顔



長崎

瀕死の少女に上着を 長崎 18才 動員学徒



瓦礫の中に妻と長男の顔が 広島 26才 軍人



ぐるぐる巻きで担架に 長崎 6才 幼児



マンホールに避難した 広島 19才 軍人

どこの水槽をみても空の水槽はない上半身は裸指先には黒い糸のようになった皮膚がたれさがっている  
小さな男の子がみずをちょうだいといって私にすがり、バツタリ倒れた……水のある所に連れていこうと  
そのこをかかえて走った間にあわなかったしんでしまってそのこは水をのんでのんでくれなかった。



水を飲んでくれなかった 広島 23才 女子挺身隊



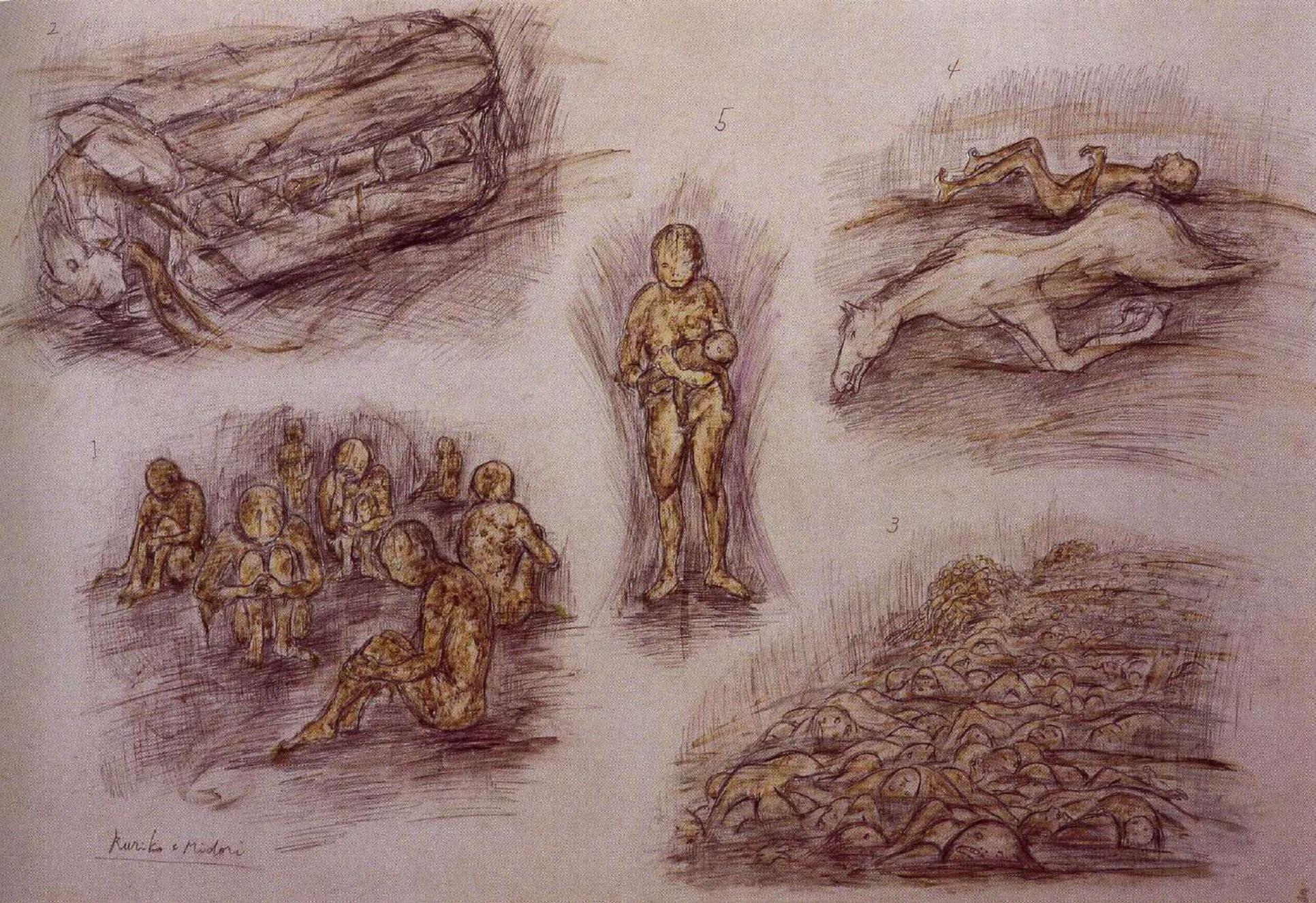
幼児を抱き息絶えた母親 広島 25才 軍人



少年は力尽きて その場に倒れた 広島 19才 軍人



その夜から墓場で 長崎 6才 少女



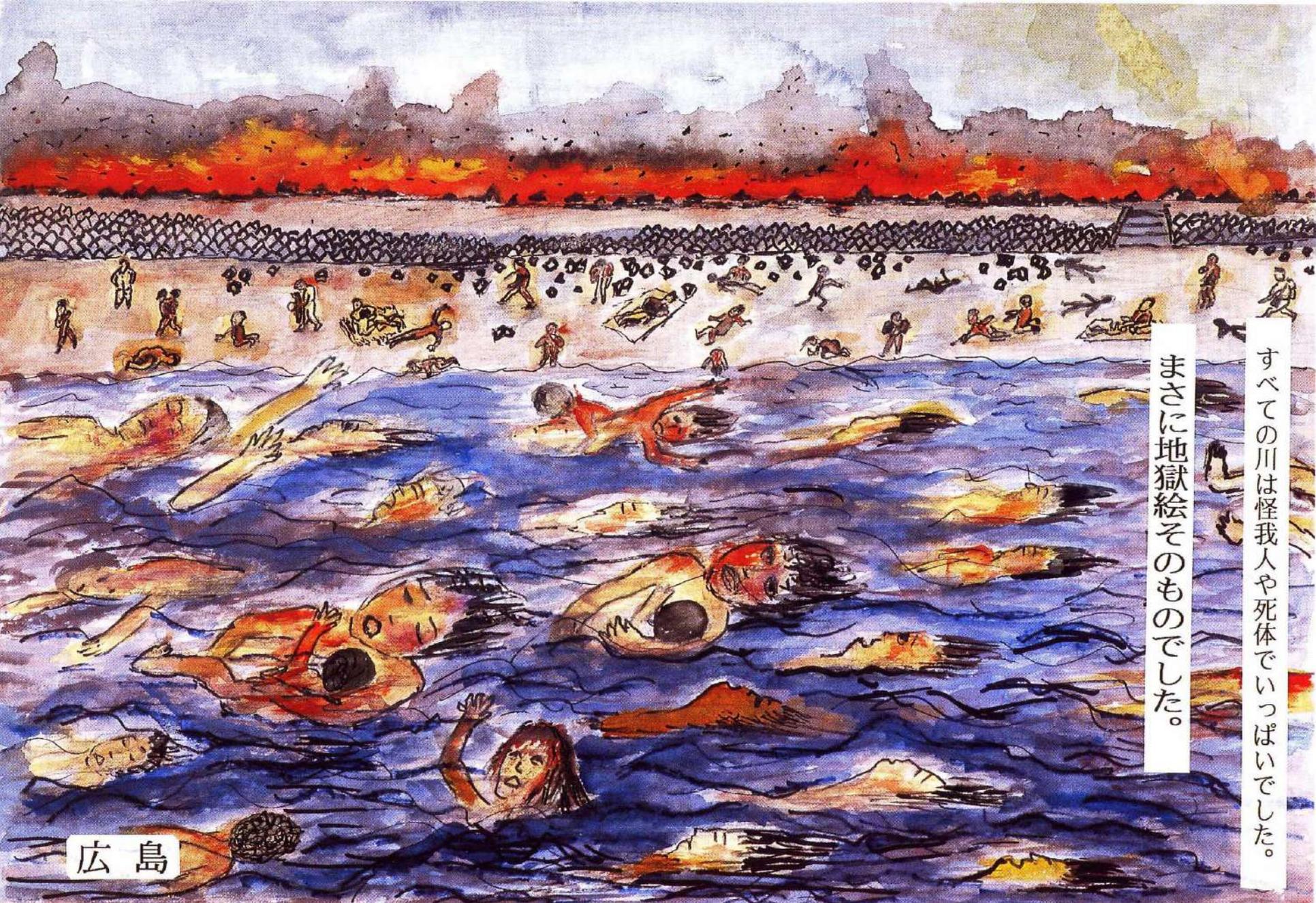
私の見たあの日 広島 18才 女教師



友の亡骸を茶毘に 長崎 15才 動員学徒



トンネル工場の中 長崎 17才 女



まさに地獄絵そのものでした。

すべての川は怪我人や死体でいっぱいでした。

広島

川は死体で一杯に 広島 21才 軍人



広島

一回に五十体ずつ、油をかけて焼かれていった。

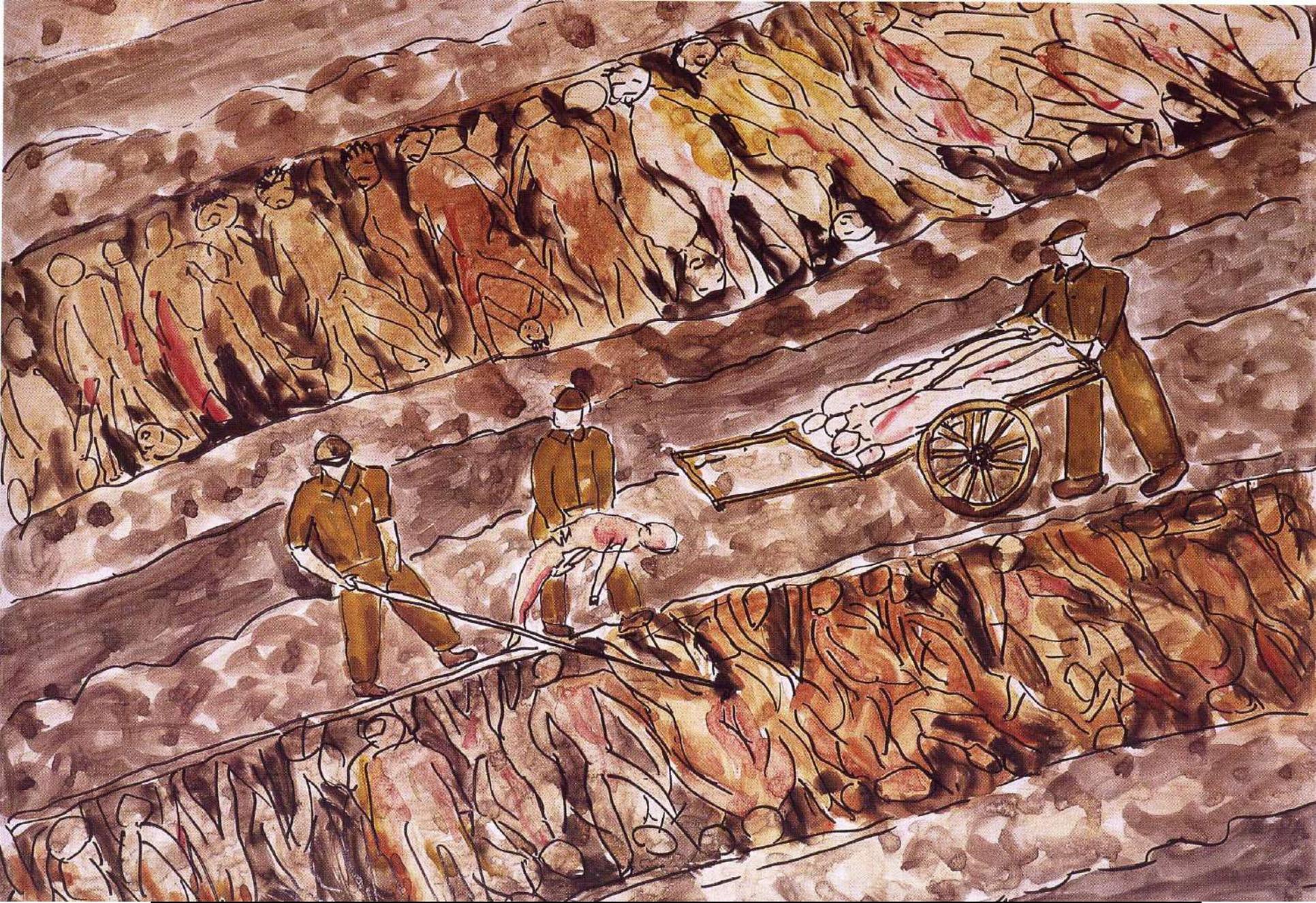
一回に50体ずつ焼く 広島 19才 軍人



帯のように燃えて 長崎 24才 主婦



材木を集めて子どもを火葬に 長崎 25才 主婦



この世の地獄 遺体処理 広島 19才 軍人



広島駅近くの京橋町で 広島 16才 女学生



片目を失った友人 広島 17才 軍属

# 死体 焼却場



結成25周年記念事業  
横濱市役所跡地緑地の会

山のような死体を焼く 広島 18才 軍人



幼かった私が見たもの 広島 4才 幼女

父と母とわたし



父と母とわたし 長崎 19才 学生